

## 研究の概要 (オプトアウト公開用)

西暦 2023 年 1 月 1 日

臨床研究を実施する際には、文書もしくは口頭で説明のうえ同意を取得して実施をします。臨床研究のうち、研究対象者等（患者さん等）への侵襲や介入もなく診療情報等の情報のみを用いた研究や、余った検体のみを用いるような研究については、国が定めた指針に基づき、研究対象者等のお一人ずつから、必ずしも直接同意を得る必要はありませんが、研究の目的を含めて、研究の実施についての情報を公開し、さらに拒否の機会を保障することが必要とされております。このような手法を「オプトアウト」と言います。

本研究への協力を希望されない場合あるいはお問い合わせは、下記の担当者までご連絡ください。

|               |   |
|---------------|---|
| 審査課題名         | タイムラプス画像の機械学習解析を用いたヒト胚の形態学的運命決定期および形態良好胚誘導因子の同定   |
| 実施施設責任者       | 英ウィメンズクリニック 理事長 塩谷雅英  |
| 研究代表者         | 京都大学大学院医学研究科 器官外科学 婦人科学産科学 講師 堀江昭史  |
| 研究対象者         | 当院で体外受精治療を受けられた方のタイムラプス胚培養に関連する情報および研究に使用させていただくことに同意をされた廃棄胚  |
| 研究期間          | 2023 年 1 月 1 日～2027 年 3 月 18 日  |
| 研究目的・方法       | <p>・ 研究の意義・目的・方法</p> <p>良好胚と不良胚を決定づける重要な因子を同定することを目標とし、その成果は高度生殖補助医療の成績向上につながることを期待され、臨床的意義の高いものである。</p> <p>目標達成のため順に下記の段階を達成する。</p> <p>① タイムラプス画像の AI 解析により胚の形態学的運命決定期を同定し、運命予測モデルを確立する。</p> <p>② 胚の形態学的運命決定期直後の予測された良好胚と不良胚を免疫染色、トランスクリプトーム解析などにより多角的に解析することで、良好胚の形成に重要な因子を抽出する。</p> <p>③ 抽出された重要な因子を元に培養系への添加実験を行い、①のモデルと②で抽出された因子の妥当性を検証する。</p> |
| 研究に用いられる試料・情報 | タイムラプス胚培養データおよび廃棄予定の受精胚   |

|           |   |
|-----------|---|
| 個人情報の取り扱い | 利用する情報から氏名や住所等の患者様を特定できる個人情報は削除いたします。また研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際にも患者様を特定できる情報は含まれません。その他当院の個人情報保護方針に則り取り扱いいたします。 |
| お問い合わせ先   | 英ウィメンズクリニック<br>倫理委員会事務局担当 山本健児<br>電話 : 078-392-8716   |